

【叙勲】

## 祝 叙勲 令和7年 秋の叙勲受章

瑞宝双光章受章 謹んでお祝い申し上げます。

井下富夫氏(59回生 関東支部)

元 東京大学医科学研究所附属病院 診療放射線部技師長

令和7年 秋の叙勲にて瑞宝双光章を賜りまして

元 東京大学医科学研究所附属病院 放射線部 井下富夫(59回生)

秋の叙勲に際し、はからずも瑞宝章を拝領仕りまして、皇居において天皇陛下の拝謁を賜る光栄に浴したことわが身に過ぎたる榮誉に身の引き締まる思いであります。これもひとえに旧京都医療技術専門学校の諸先生方、東大病院の諸先輩をはじめとした皆様方のご指導、ご鞭撻の賜物と痛感いたしましてここに御礼申し上げます。

昭和60年母校を卒業したのち、東京大学医科学研究所附属病院(港区白金台)に入職しました。東大医科研(通称)は新・千円札の北里柴三郎博士が初代所長として、旧千円札の野口英世博士がその助手として世界的な細菌学者の二人がその当時在籍した研究施設でした。その伝統から感染症分野において先端的医療を駆使して予防医学、診断治療に寄与して市井の医療機関とは一線を画す医療を行うことをミッションとしています。首都圏で始めての AIDS 患者の収容から成田空港の検疫で収容された不明熱の渡航者の緊急搬送(マラリア、デング熱、ラッサ熱など)に対応、近年ではエボラ出血熱を視野に入れて現地アフリカへ観察に出かけた医師の報告会が催されるなど、流行地からの受け入れの態勢づくりを検討しておりました。

1999年東海村 JCO 臨界事故に際して東大本院病院と共に、事故被ばく患者1名を収容してその検査、治療に対処しました。当院の血液内科では骨髄移植、臍帯血移植を行っており、それに伴って全身放射線治療を施行していますので、TBI の照射後と同じく無菌病棟での治療対応となりました。最終的に患者は多臓器不全でお亡くなりになりましたが、常日頃、放射線を取扱う者として過度の放射線被ばくの人体的影響について ICU レベルの現場で病状管理を行う麻酔科医師の報告により、その詳細を学ぶ機会を得られたものの、放射線管理の杜撰さから露呈した人的災害であったことがなんとも皮肉な事故の顛末で無念でなりません。

浅学非才の身で永年東大医科研病院のもとで高度医療を見分させていただき、自分なりに尽力してまいりましたが、このたび、このような栄誉をいただきましたことは感激の極みでありました。今後も微力ながら学生時代にお世話になりました山田勝彦先生、西谷源展先生、学友会の諸先輩方に対しまして些かなりともご芳情に報いたいと存じます。なにとぞ従前のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。

以上

